INTERVIEW

弓削メディカルクリニック 院長
雨森正記先生

家庭医を養成する診療所として

聞き手：山田隆司先生　地域医療研究所長

家庭医を志して

山田隆司（聞き手）　今日は滋賀県竜王町の弓削メディカルクリニックに雨森正記先生をお訪ねしました．先生はご自分のクリニックを設立されてそこで研修医教育もされているということで，ぜひお話を伺いたいと思います．

まずは，先生の経歴をご紹介いただけますか．

雨森正記　私は自治医科大学の８期生で1985年に卒業しました．初期研修は滋賀医科大学附属病院で１年目はローテーション，２年目は第３内科に１年いました．

山田　そのころは滋賀医大ができて早い時期だったのですか．

雨森　まだ早い時期で滋賀医大の５期生が同期になります．自治医大卒業生で滋賀医大で研修したのは私が４人目でした．滋賀医大は当時ストレート研修で，自治医大卒業生だけがどこかの医局に入ってそこから特例でローテーションさせてもらいました．ただ大学病院で一人だけローテーション研修というのはつらいものがありました．

３年目は琵琶湖の北部の公立湖北総合病院へ行き２年間内科医として勤務しました．当時の湖北総合病院には，馬場道夫先生という大変立派な院長がおられて，馬場先生を慕って京都府立医大や滋賀医大から優秀な先生が集まっておられました．馬場先生のおかげで地域医療のイロハを学ばせていただきました．卒後５年目から竜王町国保診療所へ赴任しました．竜王町は今年で27年になりますが，国保診療所には６年半いました．竜王町に赴任して５年目に研修終了となりそれからどうしようかと思っていた時に，当時の“JAMIC JOURNAL”に米国のミネソタで開業している佐野 潔先生（現 徳洲会地域家

庭医療レジデンシープログラムディレクター）のクリニックを見学しようという募集が学生向けに出ていたのです．そこで応募して米国の家庭医療を見学に行きました．

山田　そのころからもう家庭医に興味があったのですね？ どうしてですか．

雨森　当時滋賀県は５年目から５年間診療所へ行かなければならなかったので，専門医としては乗り遅れるだろうなという思いがあったこと，また自分にとっての本業はやはり診療所であり，実際にその診療所に赴任してみると内科の専門医や小児科の専門医などとは全く異なるもので，それも一つのステータスだと感じていたのですね．私の祖父や父が湖北の開業医で何でも診る医者だったということもあります．

山田　先生にとってはお祖父さんやお父さんから受け継いだ仕事が家庭医療と重なりあう部分が多かったということですね．

雨森　町医者が普通で病院が特殊な医療だと思っていました．それで私も自治医大に入ったのでそうなるのが当然のことと思っていました．家庭医は病院の専門とは異なっていて，やはりきちんと勉強しなければいけない．多職種連携とか，患者中心の医療といったものは家庭医療の基本ですが，大学では教えられないし，でも本来学んでおかなければ患者さんのためにならない．家庭医療の基本が全く教えられていなかった現状に「それでいいのだろうか？」とずっと思っていました．

山田　なるほど．それで米国の家庭医療を見に行こうと思われたわけですね．

雨森　はい．行った日付も覚えています．1993年６月27日～７月10日まで２週間行きました．この２週間で，その後の人生が変わりました．やっぱり聞くのと見るのとは全然違いました．米国の開業医や家庭医はグループプラクティスで，それなりにうまく休みを取ったり勉強する時間も作っている．また３年間の家庭医療のコースを修了すると専門医としてのステータスがあるのです．私はその時卒業して10年くらい経っていたので，３年のコースを修了した医師より経験もあって負けるわけはないと思いましたが，私にはステータスは何もなかったわけですね．

そんなことを考えている時に，佐野先生から「アメリカに来ないか？」とそそのかされて，それではということで米国の家庭医療のレジデントにアプライしたのです．当時400ぐらいプログラムがあった中，100ヵ所に申し込みの請求を行い，申し込み書を送ってくれた30ヵ所にアプライし，ミネソタ大学，インディアナの病院，メイヨークリニック，ハワイ大学，ミシガン州立大学の５ヵ所に面接に行きました．その時の詳細は「月刊地域医学」のVol.19～20（1995～1996年）に掲載してもらいました．

1995年３月，竜王町国保診療所を辞めて米国へ行くぞ！と思っていました．しかし３月15日になってアンマッチという結果が来たのです．「子どももいるし家庭もあるし，どうしよう……」と思いました．

ところが，ちょうど今のこの診療所のある土地で開業していた産婦人科の先生がその３年ほど前に亡くなったために空き地になっていて，ここをどうしようかというのが竜王町にとっての大きな問題になっていたのですね．そこでアンマッチという通知が来てから１週間くらいで，竜王町長はじめ竜王町の行政の方と話をして「診療所としてやりませんか」と提案して話が進み，半年後にオープンしました．

山田　運営はどういう形だったのですか？

雨森　最初は竜王町国民健康保険診療所弓削出張所という形です．

山田　では竜王町の中に，国保診療所と先生の出張診療所の両方あるということだったのですね．

雨森　そうです．竜王町は１万３千人の町で，もと